

沙美地区社協だより

発行 沙美地区社協 広報部

集いの場(サロン)へようこそ

「昔は良かったな。」高齢の方々から時折耳にする言葉です。昔は向こう三軒両隣のコミュニケーションがあたり前のようによく普通にとられていました。時はめまぐるしく移り変わり、便利な世の中ながらついて行くのも一生涯懸命な高齢化社会となりました。

いつまでも自分らしく地域で暮らし続けることを目指しているいろいろな取り組みが行われています。沙美地区でも平成二十三年より次々と設立されてきたサロンは、現在四か所で活動しています。それぞれのサロンでの活動内容は、作品作り・脳トレ・歌など様々ですが、共通していることは明るく元気で楽しい居心地のよい居場所となっていることです。

そして昨年より支援センターさんのサポートをいただきながら新たに「いきいき元気体操」が始まりました。童謡を歌いながらリズムに合わせて負荷をかけての体操ですが、慣れてくると楽しく、効果がでてくるのも励みとなっています。



菜の花畑イノシシ防護柵設置

平成二十八年十一月十七日 木曜日

沙美の浦に早春の訪れを告げる菜の花。県道を通って東方から沙美を訪れる人が坂を登り切り、緩やかに下りながら光に輝く瀬戸内海を一望できる。安堵したところへ、映える緑に眩しい黄色が山裾から目に入ってくる。

今年も道行く人々の目を楽しませようと、有志等が汗を流し、草刈り、耕運して種を蒔いた。綺麗な若葉がそろそろ芽吹いた頃、イノシシが餌のミミズを求めてか、菜の花畑の土を掘り返した。それも一度のみならず幾夜に渡って、隅から隅まで余すところ無く、とても丁寧に。大変だ。何もしないと、とても寂しい菜の花畑になる。どうしたらいいのかと皆で相談。そうだ。イノシシが入れないような防護柵を作ろう。

柵資材(金網・鋼杭・針金)購入費の半分を市の補助金として戴き感謝。地区社協の事業ではないが、これからも、菜の花が、咲き続けますように。



ご挨拶

沙美地区社会福祉協議会会長 原田 貞男

沙美地区社会福祉協議会より社協だより四号を発行致します。

本年の行事全般にわたりご理解とご協力をいただき尚多数の参加もあり交流、親睦を深めて下さり厚くお礼申し上げます。

五月中に総会を開催しますから多勢のご出席をお願い致します。

又、お祭の千歳楽運行を子供会だけで運営するのが困難となり小学生全体に参加してもらえないと出来ない、それと同時に地域全体でも取組まなければお祭が寂しくなると思いますのでご意見やボランティア参加をよろしくお願い致します。

連携から協働へ

地域とともにある沙美小学校へ
沙美小学校校長 日向浩一郎

これまで沙美小学校は、学校教育目標「自ら学び、心豊かでたくましく、『生きる力』に満ちた子どもの育成」を目指して、さまざまな教育活動を行ってまいりました。そして、昨年度からは、活動の一層の充実に向けて「地域連携による学校支援事業」の取り組みを開始いたしました。本校の呼びかけにより、約七十名の地域の方々が、環境整備・学習支援などでサポーターとしてご協力くださるようになりました。こうして、たくさんの方々の地域の方々により沙美小学校は支えられています。本当に感謝の気持ちでいっぱいです。さて、学校教育目標にも掲げられている「生きる力」は、多様な人々と関わり、さまざまな経験を重ねていく中で育まれるものです。決して学校だけで育まれるものではありません。子どもたち

は、地域社会とのつながりの中で、絆を育み、豊かさをたくましさをも身につけていくものなのです。子どもたちが豊かで健やかな成長を遂げるためにも、また現在の学校や子どもたちが抱える課題や家庭・地域社会が抱える課題等を解決していくためにも、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、社会総掛かりで行う教育が必要な時代になっていると思えます。

こうした状況を受けて、文科省は、保護者や地域の人々との連携をさらに強め、協働して学校運営を行う「コミュニティ・スクール」という制度を広げようとしています。地域の方々のご協力が多くいただけたら、沙美なら可能であると考え、現在、倉敷市に要望を提出しているところです。もし認められれば、沙美小学校は、平成二十九年四月に倉敷市で最初のコミュニティ・スクールの小学校となり、市内の「コミュニティ・スクールの嚆矢としてモデル校となることでしょうか。コミュニティ・スクールは、学校と保護者や地域の方々とともに知恵を出し合い、学校運営に意見を反映させることで、一緒に協働しながら子どもたちの豊かな成長を支え、「地域とともにある学校づくり」を進める仕組みです。

連携の段階から協働の段階へ。沙美小学校はますます「地域とともに」あり続けます。地域の皆様には、今後ともお力添えをよろしくお願いいたします。



沙美 秋祭り

平成二十八年十月十五日・十六日
沙美子ども会会長 原田 祐子

例年通り、今年度も沙美地区の秋祭りに、沙美子ども会として、平成二十八年十月十五日、十六日の二日間に渡り、子ども神輿の巡行を行いました。今年度も昨年度と同様、会員数の減少に伴い、一台の神輿で東、野呂、中、西地区を担ぎました。一日目、天候にも恵まれ、諏訪神社での参拝を終えて、元氣いっぱい巡行したのは中、西地区。大きな掛け声と共に狭い道や急な山道を社会福祉協議会の方や地域の方、保護者の方々の力をお借りしてみんなで無事に巡行することができました。この日は、黒崎連島漁協前に到着後、できたての焼きそばを振る舞って頂き、それを嬉しそうに持って諏訪神社に行き、食べて頂きました。神社の顔が忘れられません。

二日目、この日は東、野呂、中地区の巡行の日ですが、当日はあいにくの曇り空。役員としては雨が降らない内に巡行したいと思う気持ちでしたが、子ども達のパワーが勝ったのかどうか!? 途中少しだけ雨がパラつきましたが、ひどく天候が崩れることもなく、両日ともケガなく終えることができました。

沙美子ども会会員数の減少もあり、子ども会が主になって子ども神輿を巡行するのは、安全面や人数的なこともあり、今年度で最後になってしまいました。が、子ども会が存続している以上は少しでもお手伝いができればと思っています。



総会・特別講演会

平成二十八年五月二十二日 日曜日

平成二十八年年度沙美地区社会福祉協議会総会を黒崎公民館において開催しました。少数の出席者ながら総会は原案可決で終了しました。来年度は更に多くの出席を期待しています。

総会後、特別講演を行いました。講師には今年度から黒崎駐在所の駐在さんが替わられたので、この機に新しい駐在さんにお話をさせていただき、親しめる駐在さんとして沙美の皆さんを守ってもらいたいという思いを込めて講演をお願いし、快く引き受けていただきました。

「はじめまして駐在です」という演題で、玉島警察署黒崎駐在所の坂川和生巡査長が、地域の方々とは初顔合せとなる舞台に登場されました。地域の困りごとの相談にも親身に対応してくれそうな期待感がお話をお聞きして感じて感心され心強く思いつつお話を傾けました。

最近、特殊詐欺の問題が多発しており、心配していたのですが、坂川さんは「特殊詐欺被害防止クイズ」を準備してくださり、出席者は真剣にクイズに挑戦し、答え合わせの分かりやすい説明に納得できたようでした。駐在所への連絡、特に留守の時の連絡方法も教えてくれ、出席者からの質問にも快く答えていただき、今後、地域住民にとって頼りがいのある親しめる警察官という印象を持ってたので、講演をお願いした目的が達成できたと確信しています。



福祉講演会

平成二十八年六月十二日 日曜日

六月十二日(日)黒崎公民館で福祉講演会を開催しました。

演題は「地球温暖化防止について」。講師は金光町の鍋谷和彦さんでした。氏は岡山県地球温暖化防止推進委員の活動を十一年つづけておられ県から表彰されています。大きな地球儀を持ち込んで世界の温暖化の状況を熱く語ってくれ、八十名で拝聴しました。

多くの時間をとり、原発のこわさや今後の日本の電源エネルギーはどうあるべきか等、考えさせられる会でした。

会のあと、「うた声グループ」の森元明美先生のピアノで「なつメロ」や「童謡」を若いも若きも大声で唄いました。



ふれあい交流会

平成二十八年九月二十五日 日曜日

平成二十八年九月二十五日(日)、黒崎公民館を会場に、沙美地区ふれあい交流会が催されました。天候にも恵まれ、約百五十名の入場者で、終日にぎわいました。

午前中は、ロビーや和室を会場に、愛育委員さんによる「二健康展」が実施されました。測定者数は六十七名でした。

医療生協さんにもお手伝いいただき、従来の血流や足裏測定等に加え、呼気中の一酸化炭素量チェックやスキンチェック、足指力チェックなどを実施することができました。

大会議室では、高齢者支援センターの方の話聞き、みんなで「いきいき元気体操」をしました。腕や足に重りを付け、唱歌を歌いながら、楽しく体操をしました。

現在、沙美にはこの体操に取り組んでいるグループが四つあります。それぞれ、雑談や脳トレも交えて、筋力アップを図り、体力向上に努めています。認知症や寝たきりにならぬよう、健康寿命を延ばせるよう、楽しくいきいきと活動しています。高齢化率の高い地区だからこそ、いつまでも元気で充実した人生を送りましょう。

また、今年度は、あすなろ園からバスを出していただき、会場まで交通手段のなかった方々も参加できました。ありがとうございました。

昼食は、昨年大好評だったカレーを栄養委員さんが作ってくださいました。みんなでおいしくいただきました。

午後は、おなじみのフラダンスや、小林さんによる手品で、会場は大いに沸きました。

最後は、恒例の空くじなしのビンゴゲームで盛り上がりました。

今後、より多くの住民の方々に参加していただき、健康意識を高めたり、笑顔で話を咲かせたり、お互いの交流を深めたいと考えています。



三世交代交流歩け歩け大会

平成二十八年十一月二十三日 水曜日

晩秋の少し肌寒い祝日の朝、八時過ぎから甲高いこどもの声とともに、子・親・祖父母世代約七十名が、次々と黒崎公民館に参集し、三世交代歩け歩け大会が開催されました。

公民館をはじめとし、本性院、新池、御前神社、安養院、妙立寺、小原公園をとおる公民館へ帰ってきました。約八キロ三時間程度のウォーキングでした。景色を見ながら、交通安全に気を付けてつ、おしゃべりや口を動かすことに花を咲かせてのひと時を楽しみました。

新池では、中津貝塚の歴史や現在の状況の説明を全員で聞きながら、昔の景色や今後の移りゆく様子を想像しつつ一語一語に聞き入りました。また、安養院や妙立寺の井戸汲みポンプに子供たちが声を上げて喜んだり、感心したり、きつと新しい発見だったのでしよう。

短い時間と距離でしたが、心と体にそんなに無理がなく、地域を知ることができ、歴史の一部に触れることができました。子供の声とよもやま話と紅葉が大会に彩りを添え、楽しいひと時でした。

